

団体名	認定NPO法人くびき野NPOサポートセンター	活動タイトル	子どもケア団体支援のプラットフォームづくり	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
●望ましい社会状況(ビジョン)	<p>今回実現したいビジョンは、「ケアが必要な子どもたちが適切なサポートを受けることができる環境が整備されている地域」である。</p> <p>具体的には、子どもたちや保護者がアクセスしやすい情報発信、ケア団体が安心して継続的に活動できる仕組み、支援者やボランティアが参加しやすい環境が整っている状態である。</p> <p>地域全体でケアが必要な子どもたちを守り育ていける地域をめざす。</p>		<p>団体交流会の様子</p> <p>コロナ禍での活動の悩み、運営に関する情報交換など活発に意見が交わされ、団体のモチベーションアップにつながりました。</p>	
●団体の社会的役割(ミッション)	<p>当法人のミッションは、「市民参加型社会を造り出すために、その原動力となるNPOを支援し、NPOが活動しやすい環境を整える」ことである。</p> <p>具体的には、下記3つの目標を柱に、地域コミュニティの底力をあげていく。</p> <p>(1) 市民のNPOへの関心が高い</p> <p>(2) NPOへの支援が多い</p> <p>(3) 自主・自立したNPOが数多く存在している</p>			
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●人材：受益者からの相談対応、支援者へのファンドレイジング及びボランティアコーディネート等を担える人材を育成する。 ●物的資源：事務所内にNW専用スペースを設置（物資を管理）、事業に必要な物資や食品等について企業及びフードバンクと連携して調達する。 ●活動資金：助成金終了後、自主財源で継続的な運営ができるよう寄付金及びスポンサー協賛金等を十分に確保する。 ●ナレッジ：NW事業の中で培ったノウハウ等を団体の事業運営に共有していくとともに、ケア団体とも共有し地域全体で子どもケアに関するスキル向上をめざす。 			
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p>今回の助成金を活用して、くびき野地域（上越市・糸魚川市・妙高市）で子どもの生活や育ちを支える団体が集まる「くびき野こどものみかたネットワーク」を設立した。</p> <p>ネットワークの設立にあたっては、団体学習会、プラットフォームづくり、設立フォーラム、広報・PR活動の4つの柱を中心にすすめた。</p> <p>(1) 団体学習会（交流会） 子ども食堂、学習支援、CAPなど8団体がチャーター団体となり、関心のある個人や団体も交えながら、期間中2回開催した。</p> <p>(2) プラットフォームづくり 3市の行政や関連機関等と連携を構築。また、相談対応マニュアルを作成し、団体相談への対応力向上につなげることができた。</p> <p>(3) 設立フォーラム 2021年12月に設立フォーラムを開催。多様なセクターから約80名が集まり、交流することができた。</p> <p>(4) 広報・PR活動 NPOPRESSで団体情報コラムを定期的に掲載。団体情報を一つにまとめた「こどものみかたMAP」を製作、3市内の小児全児童の手元へ配布。合わせてWebページも製作した。</p>			<p>(1) 団体学習会 予定通り期間中2回開催することができた。第1回12団体16名、第2回6団体9名（※コロナ流行期に伴い、チャーター団体のみ）が参加。アンケートの参加や関係構築に関する項目でも、92%以上の満足度が得られた。対面での交流会を今後も定期的に開催したいという声が多数出た。</p> <p>(2) プラットフォームづくり 3市の子どもの関係担当課、教育委員会、新潟県の児童相談所、福祉機関等との連携を構築することができた。子ども食堂やパントリーの立ち上げ相談6件（期間中に4件が活動立ち上げ）、支援や寄付について12件コーディネートすることができた。</p> <p>(3) 設立フォーラム コロナ禍で何度も延期検討を重ね、2021年12月6日に開催した。多様なセクターから約80名が参加。（活動理解度84%、満足度79%）</p> <p>(4) 広報・PR活動 リフレット製作発行。新聞へのコラム掲載8回。企業・個人からの寄付4件。みかたMAPを見て、小学校からの講演依頼、クラスで作ったお米をフードバンクへ寄付したいという子どもたちからの依頼など波及効果もあった。</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・団体同士をつなぐ場の創出 ・団体と多様なセクター（行政・民間企業・関係機関・関心のある市民等）間のコーディネート ・団体の運営や新規立ち上げに関する支援力 （コロナ禍での運営に関する相談、定常的な子ども食堂開設の相談、JAなど生産組合の貢献活動によるコミュニティ食堂開設の相談、助成金申請や資金調達の相談など様々なケースに対応） 			<p>【団体のニーズの変化】 それぞれの子ども食堂と対話を重ねていく中で、今まで運営の目的が「子ども支援」「楽しい食事の提供」「多世代交流」という軸から、コロナ禍で「子どもの貧困対策」という意識が高まっていることがわかった。活動スタイルの「変化」「より一歩踏み込んだ支援」に対する迷いや不安の声も多く、そういった課題への寄り添った支援が必要だと感じている。</p> <p>【教育現場の理解や認識への啓発】 「こどものみかたMAPは、生活が貧しい家の子どもたちに向けてのリフレットです」と言って児童に配布したクラスがあったと、ある子ども食堂のボランティアから聞いた。子ども食堂＝貧しい子やかわいそうな子が行くところというネガティブな認識を持っている実態も残っている。子ども食堂を身近に感じることができる地域になるよう、普及啓発をすすめていきたい。</p>	
■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>くびき野地域に「こどものみかたネットワーク」を設立し、団体の支援、子どもたちや支援者がアクセスしやすい環境づくり</p> <p style="text-align: right;">を達成しました。</p>
■ 受益者の具体的な変化（自由記入）				<p>子ども食堂や学習支援団体からは、感染症対策で休止や活動内容の変更が生じている中、団体交流会やフォーラム等で活動に対するモチベーションが上がったという声を多くいただいた。</p>